

# 第2回 JICA タイ事務所とのオンライン交流

令和4年1月21日(金)

今回の交流では、森田隆博タイ事務所長のご紹介により、三好克哉様からタイの生活事情をうかがうことができた。三好様は福島県のご出身で、大学ではドイツ語を専攻。JICA入構後はネパールにも駐在し、現在はタイ事務所勤務で約15年。生徒が多くの質問をした中から8つの質問の回答を以下に掲載する。

## 1 タイでの重要な(印象的な)お祭りは?

ソンクラン。旧正月に行われる水かけ祭りで、元々は新年のお祝いである。現在では4月13日~15日に行われ、水のかけ合いという遊びの要素が強くなってきた。



## 2 高校生が行くのにおすすめの名所は?

クレット島。バンコク中心部から北に約30kmのところにある。島と言っても、実際はチャオプラヤー川の中州で周囲約7km。名産品は素焼きとお菓子。素焼きの壺にジュースを入れてサイクリングをしながらあちこちのお店を回ると気分爽快。



## 3 日本人にすすめたい地元の料理は?

辛いのが好きならば、ソムタム(甘酸っぱいパパイヤの和え物)、苦手ならば、マッサン・カレー(タイ南部のココナツツ風カレー)。三好様のイチ押しは、ヤム・ソムオー(夏ミカンとエビの和え物)で、タイに来たら是非食べてみてほしいとのこと。→右の写真



## 4 流行しているものは?

インスタグラムやTikTok。大きな地下鉄の駅とデパートを結ぶ地下通路はインスタ映えするような照明がある。また喫茶店でも、あたかも雪が降ったかのように見せる飾り付けがされていて人気。



## 5 コロナの前と後でどう変わったのか?

- ・タイ人で、公務員の人は在宅勤務となり業務停滞に。会社員は、在宅勤務となり給与が減額され解雇や転職。屋台やマッサージ、夜の店に携わる人は田舎に帰る。路頭に迷う人たちは、窃盗や詐欺等の罪を犯すか自殺。
- ・出稼ぎ外国人は、自国に戻るも、タイの工場での人出不足を聞き再びタイに入学し感染源になってしまう。

## 6 タイ・日本の生活習慣の違いについては?

- ・基本的にタイは寛容で何事にもアバウトな社会である。
- ・会議や電車で携帯電話を使用しても問題ない。
- ・子供を職場に連れてきて問題ない。
- ・物乞いにはすすんでお金を恵む。
- ・食事は目上の方がおごる。
- ・政治家の発言に目くじらをたてないで笑い過ごす。

## 7 改めて知った日本・日本人の良さは?

- ・誰もが法律を守る完璧な民主国家である
- ・街がとても清潔である。
- ・接客態度が素晴らしい。
- ・誰もが責任をもって仕事をしている。
- ・空気が澄んでいる。
- ・歩行者優先で安心して道路を渡ることができる。

## 8 給料やアルバイトについて

焼き鳥屋台	セブンイレブン	会社OL	タクシー運転手	農家
				
焼き鳥を1本10パーツで売っています。朝から夜まで毎日働きます。	7-11でアルバイトとして働いています。これがメインの仕事です。	大学を出て、銀行に入社したばかりです。	タクシー会社から車を借りているので、売り上げから車のレンタル代が引かれます。	家族全員が食べる米や野菜には困りません。必要ならバンコクへ出稼ぎに行きます。
月収9千パーツ	時給60パーツ	月給2万パーツ	月収1万5千パーツ	月収??

### 追加ーリモート授業事情

タイでは児童生徒に、PCやタブレットなどのリモート授業のデバイスは国から与えられておらず各自(各家庭)のスマホで対応することになっている。きょうだいが複数いる家庭では、誰かがリモート授業を受けられず困ることになる。

\*上表で、1パーツは約3.5円である。なお高校生は、基本的にアルバイトはせず、親からお小遣いをもらう。

今回の交流は、観光立国タイの生活事情について、様々な角度から知ることができたいい機会となった。最後に三好様は、タイの魅力はなんと言っても「寛容で緩やか」で、「共助精神、喜捨精神(タンブン:寄付をしたり善行をしたりして徳を積むこと)」に富み、「高齢者や子供に対して優しい」社会であると力説された。